

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2292300502		
法人名	医療法人財団百葉の会		
事業所名	グループホーム花咲み(はなえみ)		
所在地	富士市宇東川西町8番41号		
自己評価作成日	令和元年8月14日	評価結果市町村受理日	令和元年9月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&jiyosyoCd=2292300502-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和元年8月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・理念「自らが受けたいと思う医療と福祉の創造」の元、自分や親、大切な人が受けたいと思う介護の提供、寄り添うケアの実現に取り組みサービスの質向上に努めている。お客様の～したいの声を大切に、企画に繋げ実施している。こやまケアを実践し個別での対応を行っている。

・初年度にISO9001認証取得、一定の質の確保と顧客満足度向上を目指して運用している。

・湖山グループ・法人として人材育成に力を入れた研修や勉強会の体制がある。

・高原のカフェをイメージとした落ち着いた室内、ゆったりとした空間でお客様にお過ごし

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

実践者研修に参加した職員が取り上げた利用者において、これまでの暮らしについて見返したところ、「お出かけが好きなんだあ」「食いん坊さんなのかも…」と新たな発見があり、入居後塞ぎこみがちな本人を誘って毎月1回外食に連れだしているエピソードが事業所の姿勢を十二分に物語っています。本件は介護計画書にも位置付け、日頃の関わりにおいても「○○美味しかったね。次はどこ？」と弾む会話となり、本人の笑顔も増えて家族も喜んでます。他にも、頻回なトイレが職員の関わりを増やしたことで回数が減った例もあり、職員間に「代わります」「ありがとう」が自然にでている連携の高さも安心を担保しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ここは、たくさんの笑顔が集まるあなたの居場所」をモットーに朝礼ではグループ理念「自らが受けたいと思う医療と福祉の創造」とこやまケアの月の目標を暗唱しお客様の立場になって考え実践している。	理念に基づき毎月の目標をもち、共に朝礼で唱和しています。振り返りは特段おこなってはいませんが、部署会議では「お互いによいところを褒めよう」と声をかけあい、理念の実践について十分な裏付けをもっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	天気の良い日は近隣、ふれあいバンクへの散歩などを行っているが日常的な交流までには至っていない。地域の防災訓練、原田地区敬老会には参加を予定している。演芸、読み聞かせなどの慰問があり交流している。	開設以来「地域の役にしたい」との思いを持ち続けて日々の運営に取組み、最近はソーメン大会の案内を表に掲示告知しています。また「地域交流室を地域の皆さんに開放していきたい」との準備も進んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開設以来地域向けに勉強会を実施、3月には近隣で保育所を開いていた園長先生にお越しいただき話をさせていただいた。本年度は実施していないが認知症カフェの運営を地域包括担当者と検討する予定である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	原田地区連言芸長、町内芸長、民生委員、ふれあいバンク所長、ご家族様に参加していただき2ヶ月に一度開催している。活動はファイルにまとめてご覧いただいている。議事録にも写真を載せご家族様に送付している。	近年はカラー写真を解説に組み入れて「わかりやすさ」に努めています。また以前からつきあいのある保育園の園長先生(元職)には運営推進会議の出席とともに、認知症カフェで講話をしてもらえた実績もあります。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通じて、事業所としての取り組みや運営状況について市職員、包括支援センター職員などにアドバイスを受けている。	併設の小規模多機能事業所は在宅ということもあって、地域包括支援センターと協力し合って共通の課題を解決することもあり、グループホームにおいても運営推進会議に毎回参加してもらえています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間を除き玄関、2F入口は施錠していない。身体拘束の研修を年間計画に入れ実施。事業所としても身体拘束ゼロ宣言を行ったが、法人としても身体拘束はしないことを徹底している。法人内富士市のGHが共同して身体拘束をテーマに動画、ポスターの作成を行い職員に啓蒙している。	昨年の法改正に基づき指針を作成するとともに「身体拘束適正化委員会規程」も併せて設け、「身体拘束廃止委員会」を3ヶ月に1度開催しています。また研修会2回、新入社員の研修も重ね、リビングに響く笑い声からは本件との無縁さが伝わります。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束について委員がポスター、動画を市内GHの代表の委員と共に作成し3カ月に一度話し合いを行っている。依頼により富士市障害者虐待防止ネットワーク運営委員会に本年度より職員が参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、必要とされる方はいないが職員への研修参加や学ぶ機会が確保できておらず活用はできていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には契約書・重要事項説明書について説明を必ず行いご署名、ご捺印をいただいている。変更等ある場合は、家族会や個々に説明している。ご利用にあたってのリスクも説明、ご同意をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本年度もお客様アンケートを実施中。ご家族様にアンケート結果と改善内容について掲示の他、個別にて郵送している。回収率を上げるためご家族様に直接お声をかける予定。ご意見箱を置き定期的に確認しているが本年度の投書はない。	面会時間に定めがなく「いつでもどうぞ」と家族には声をかけており、血糖値測定が必要な利用者の家族は朝食前の7時に来所(週1回)しており、孫やひ孫が泣き出して皆であやして大騒ぎという日もあります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人内の担当運営管理2名が毎月運営会議に参加しており、直接GHリーダーの声を聞く機会がある。また必要時には運営管理が直接リーダーと面談をすることもあった。	チームワークが良い事業所です。開設以来勤務するリーダーは「息がつける環境をつくる才能」が高く、職員の愚痴に及んでまで耳を傾けていて、「いい職場に巡り合えてよかった」との職員の言葉にも集約されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実務評価表の活用と目標管理制度では半期ごとの目標進捗状況確認面談を行い意欲向上につなげている。計画休暇、有休取得、確実な休憩時間の取得を推進、実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加させ質向上を目指している。中途入職者には、OJTを取り入れ全職員で育成体制を図っている。リーダーは職員に対し面談を適宜行っている。またリーダー、サブで指導方法について都度も検討している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会、法人内の身体拘束委員会、実践者研修への参加など法人内外の職員と研修の際がありGWなども通じて多く話をする機会があった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	独居の小多機のお客様が昨年10月に入居、帰宅願望が強くでることが予測されたが職員の関わりにより「いいとこにこれよかったよ」との言葉を聞くことができた。ご自宅で生活をされていたときのように布団をひいて休まれている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ここまでに至った経緯や苦労話、ご家族様のご心情をお聞きし、要望を取り入れる努力をしている。主治医変更の際には受診時、職員も同行しご家族様と共に話を聞かせていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	問い合わせ時・初回面談時に、現段階でのサービスが適切か見極め対応をしている。事情で入所を急がれる方には法人内外を問わずグループホームや場合によっては有料なども空きを確認し紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごす中で、入居者の得意分野の話をお聞きし、情報共有をしている。お客様に出来る事は職員と一緒にいき、役割となるよう対応している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状態の変化によりGHでの生活が難しいのではと思われるケースがあったがご家族様に状況を報告、ご協力いただき現在もGHでの生活が継続できている。研究として法人内で発表しご家族様も参加くださった。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の他、ご友人、ご兄弟がお越しくださることもあり来訪はいつでも歓迎し、共に過ごす時間を設けている。お墓参り、食事など一緒に外出をされることも多い。	体調不良があることも考慮してベッドは予備で置くも、在宅の頃のまま布団で寝起きする人や、「食欲がなくなったけど、ビールなら～」という人は、食事の惣菜をつまみにノンアルコールビールを満喫しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が入り関係性を保つこともあり、お客様に了承をいただいた上で配席を変更することもある。男性のお客様が1名いらっしゃるが居室で横になられている時間が長く、傾聴ボラさんにもお越しいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他サービス利用となった方の移行時には情報をお渡ししたがその後は相談、支援となる機会はなかった。お看取りの方、入院から亡くなられた方のお通夜には職員が参列をした。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	趣味やテレビなどを見ての一言から企画につなげて「よかった」「嬉しい」と言って頂けるように努めている。対応に苦慮するお客様もいらっしゃるが最期までここで、の想いでケアにあたっている。	「昨日眠れなかったから…」「入ってからしばらくは～」「いつも完食されるんですよ」と、絶え間なく利用者の解説ができるリーダーを中心に、職員も朗らかに振るまわっていて、利用者にも笑顔が伝染していることが覗えます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には暮らしの情報をご家族様にご記入いただきケアに生かすようにしている。定期的にモニタリング・アセスメントを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活状況や、健康状態をバイタル表にし、申し送りを通して現状把握に努めている。訪問診療時には、主治医に日々の変化、状態を正しく伝えられるように職員が互いに訪問診療時の記入をチェックしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	CMIは担当から思いやその方の聞き取りを行い内容に反映、その後ケアカンファレンスを行い、全職員の同意をもって介護計画の原案を作成している。部署会議内でもカンファレンスを実施している。	塞ぎがちな利用者には毎月外食を提案、介護計画書にも位置付けています。また「職員と介護支援専門員との情報共有が利用者の満足につながる」との考えを以て、本年度からカンファレンスを増やしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にて、日々の経過記録等に記録し、職員間で朝夕の申し送りをし、情報共有を行っている。24時間シートを活用し薬を使わず生活ができるようになった方がいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	主治医を始め、同法人(湖山リハビリテーション病院、ももはクリニック石坂)と連携を図りニーズに応える努力をしている。主介護者が県外在住の方や必要に応じて他科受診同行に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	帰宅願望の強いお客様は毎週息子様が迎えにこられ自宅で過ごす時間を持たれている。傾聴ボランティアが来所、お客様の気持ちの安定の1つとなっている。図書館から定期的に貸し出ししてもらい提供しているが活用は少ない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療にて連携を図っている。認知症チームとして看護師、セラピストが同行くださるため多方面からアドバイスをいただけている。変化あれば訪問看護に報告、主治医へ報告する流れがあり都度指示をいただいている。	月1回訪問診療をおこなう協力医に全員が変更しています。立ち合いは当日の勤務者ですが、受診がスムーズとなるようシフトは調整しています。結果が記載された「訪問診療記録」は職員の回覧印があり、共有が密です。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護が週1回来所、健康管理を行っている。また緊急時には連絡しお客様の安全と職員の安心につながっている。共に食事をとることもあり日常をみていただく機会になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先への訪問で状況把握を行い、病院関係者のSWと情報を共有した。退院時の情報は主治医、訪問看護に報告をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には看取り、重度化した場合の指針を説明、同意いただき他アンケートを実施している。居室を変更し職員がいつも様子観察と声をかけることができるようにした。看取り時にはGH職員全員が自主的に集まりお見送りをした。	開設4年目の事業所ですが、3名の看取り実績があります。最期を「医療を受け続けるか」「馴染んだ此処でか」は迷い悩む家族もいて、深い気持ちを受けとめることは難儀なもの、お見送りでは休日の職員も駆けつけていて、温もりのある旅立ちとなっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルは整備してあるが、定期的な実践訓練は行っていない。嘔吐処理は本年度も全員が確実にできるまで繰り返し実施することとした。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接するリライフ宇東川と合同防災訓練を実施した。停電時には法人内職員の応援があったが地域との協力体制は築けていない。	訓練は月1回開催でしたが、今年度から年6回ほどに絞って内容を綿密に向上させ、また前回の外部評価を踏まえ、「スプリンクラーの止め方がわかる」「消火器の取り扱いがわかる」といったチェックリストを作成しています。	焼き鳥丼に端をはってメニュー開発への意欲もあり、今後は備蓄でどのような献立となるかの研究が進むことを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	こやまケアを湖山医療福祉グループで取り組んでいる。年2回のISO9001内部監査もこやまケアの視点でも確認することとなり振り返り、評価を受ける機会となっている。	「○○さん」と優しく呼びかけ、本人のアセスメントを把握した投げかけがフロアに満ちていて、日頃から寄り添いと傾聴を通じた情報収集が叶っていることが伝わり、こやまケアの浸透がみられます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お客様のペース、発する言葉を大切にし、企画につなげ実施。日常的に笑いや笑顔が出る関わりを努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事など本人のペースに合わせるよう心がけている。無理強いをすることはないが横になっていることが多い方には不活発にならないよう声掛けをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容にて身だしなみを支援している。訪問美容でカットの他パーマ、カラーもされる方もおり好みを本人より伝えている方が多い。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人にあつた食事形態を検討実施している。お客様には食器拭きなどを手伝っていただいている。希望から個別外出、外食に行っている。おやつクッキングなど一緒に楽しむ機会もある。	利用者が好きな味、調理法を心得ていて、副菜も主菜かのように際立っており、味もボリュームも満点な献立が提供されています。本年の部署目標には「カフェ開催」をあげ、あんみつ、ホットケーキに賑わう日もあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量はその都度記録し、確保できるよう支援している。栄養士の資格を持つ職員がバランスのよい献立となっているかチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施。歯ブラシセット消毒と、義歯の消毒を行っている。ご家族様よりご希望のある方は訪問歯科を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレでの排泄を基本と考えて個別に合わせ対応している。布パンツからパットが必要となった方にはカンファレンスを開き慎重に対応をした。	リハパンでは不愉快で不衛生になりがちな利用者には、「濡れたら交換したらいい」「気持ちいいほうがいいね」「本人がしたいように」とのスタンスで家族にも相談して布パンツを続けていて、本人の意向も大切にしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	歩行支援・運動から自然な排便となるよう支援している。毎日手作りのヨーグルトを提供し、便秘にならないように努力をしている。排泄状況は訪問診療時に主治医に報告をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回以上は入浴をさせていただいている。リラックスでき入浴が楽しみとなるように音楽を流したり入浴剤を使い変化をつけたりしている。入浴の拒否のあった方には生まれの「～の湯」をラベルを張り入りたくなる気持ちを誘った。	週2回を目安に、ラジカセで音楽を流して、気持ち良く入浴してもらえるよう努めています。「蒲原～」を連呼する人には、「蒲原の湯」とラベルを貼った手作りの袋で浴剤を包んで準備して気分を盛り上げています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の様子や睡眠時間の把握をし、不眠の翌日などは、日中休息の時間を設けている。無理に寝ていただくことはしていない。ベッドに馴染まない方は布団で休まれている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報、服薬チェック、申し送りにて確認をしている。服薬時には他職員へ確認してもらいミスのないようにしている。薬剤師来所時にも状況を報告、訪問診療時には薬を変えてどうであったかの報告をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	帰宅願望の強い方にはご家族に協力いただき毎週ご自宅で過ごし大きな楽しみとなっている。お孫様がアスリートの方は毎朝スポーツ新聞を読むことが日課となっている。時折ビールを飲むことを楽しみにもされている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	企画、個別外出などを通し外出し楽しんでいただいている。その日の希望はお客様よりあまりでていないが対応していきたい。事前の申し出がなくてもご家族様との外出は行っていたりしている。	清岩寺の盲導犬のOBに会いに訪ねたり、交番のおまわりさんや障害者の就労施設を立ち寄り場所としての散歩コースが確立しています。月1回居室担当者がマンツーマンで外食する人は、ドライブ中に「嬉しい」と本人が涙を流して飲んでます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	法人として預かり金は廃止となった。お一人の方が自分でお金を持っていたいと希望がありご家族様も了承の上ご自身も持っている方がいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	以前は行っていたがご自分で電話や手紙をする方はいない。ご希望があつたり機会があれば支援したい。担当者が毎月ご家族様へ日頃の様子を伝える手紙を出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月季節感を感じてもらえるよう装飾したり、提示ボードに作品等を飾っている。室温の調整や採光・換気など気を付けている。チェック表をつくり清掃を実施している。	レースカーテンで職員が随時光を調整しており、それでも利用者が「眩しい」となればカーテンを引いて日中でも照明を点けています。また最近、作品を掲示するコーナーを職員の家族が日曜大工でつくってくださり、まるで花咲みギャラリーが創設されたかのようです。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の座席は適宜見直しをしている。席以外でも自由に過ごしていただき、気の合う方同志、ソファでお話している様子がみられている。気ままに居室で過ごす方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にあるものは、ご本人が以前から使われていた物や自慢の物、写真等が置かれている。仏壇をお持ちになられている方もいる。	ベッド、カーテン、エアコン、クローゼットのほかハンガーフックも備わり、壁紙は四面の内一面のみ模様を配していて、センスが光ります。テレビやテーブルと椅子のセット等、其々の好みのものが持ち込まれています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室の手すりは可動式でありその方にあった使い方ができるようになっている。ベランダで洗濯物干しや取り込み、畳んでいただいている。夜間這うことで移動したいと希望する方がおり見守りをしている。		